

Nikon

トータルステーション

NST-C1

使用説明書



H206J 06.9.VF.1

この度は、ニコン製品をお買い上げ頂きまことにありがとうございます。
この使用説明書は、ニコン トータルステーション NST-C1 の使用者のために書かれたものです。製品をご使用になる前に、本使用説明書を良くお読みになり、製品を正しくお使い下さい。また、使用説明書は捨てたりせず、いつでも見ることができる場所に保管して下さい。

電池およびチャージャなど、いっしょにお使いになる装置の使用説明書も必ずお読み下さい。

本書の警告／注意シンボルについて

ニコン製品は安全性に十分配慮して設計されています。しかし、誤った使い方をしたり、指示を守らないと、人体や家財に損害を与える事故が起こる可能性もあります。

本書では、次のようなシンボルを使って、「安全のために特に注意すべき事柄」を目立たせています。このシンボルの付いた指示は必ずお守り下さい。

警告

このシンボルの付いた指示を守らないと、死亡または重傷を負う可能性があることを示します。

注意

このシンボルの付いた指示を守らないと、怪我をしたり、周辺の家財に損害を与える可能性があることを示します。

警告と注意 操作の前に必ずお読み下さい！

警告

- 望遠鏡で太陽や太陽反射光などを絶対に見ないで下さい。失明の原因となります。
- 本機、電池、チャージャを、炭坑や炭塵の漂う場所、引火物の近くで使用しないで下さい。これらは完全な防爆構造にはなっていません。
- 本機、電池、チャージャの分解、改造、修理はしないで下さい。火災、感電、火傷の恐れがあります。
- 本機に使用する電池は必ず弊社が指定する電池をご使用下さい。他の電池の使用は性能の低下や火災、火傷の恐れがあります。
- 電池およびチャージャの説明書を必ずお読みになり、安全に使用して下さい。
- 電池は必ず専用のチャージャで充電して下さい。他のチャージャを使うと、発火による火災、火傷の恐れがあります。
- 電池を座布団、衣類などを掛けた状態、密閉した状態で充電しないで下さい。発熱し、発火による火災、火傷の恐れがあります。特に、充電中に電池のガス抜き穴を塞ぐと、電池内部にガスが溜まることもあり、破裂の危険があります。
- 電池の充電は、湿気の多い所、暖房器の近く、直射日光の当たる所、ほこりの多い所は避けて行って下さい。また、水に濡れた状態で充電しないで下さい。感電、発熱、火災の原因となります。
- 電池および電池ケースの電極をショートさせないで下さい。ショートさせると、火災、火傷の恐れがあります。
- 電池を火中に投げ込んだり、加熱しないで下さい。破裂して怪我をする恐れがあります。
- 電池を電池ケースに入れて保管する場合は、ショート防止のため、電極に絶縁テープを貼るなどの対策をして下さい。そのままの状態では保管すると、ショートによる火災、火傷の恐れがあります。
- 電池ケースは、それ単体では防水仕様ではありません。火災、火傷の恐れがあるため、単体の状態で水に濡らさないで下さい。

警告と注意 操作の前に必ずお読み下さい！

警告

- 傷んだ電源コード・プラグ、ゆるんだコンセントは使わないで下さい。火災・感電の恐れがあります。
- ぬれた手で電源プラグを抜き差ししないで下さい。感電の恐れがあります。

警告と注意 操作の前に必ずお読み下さい！

注意

- 三脚の取扱いには十分注意して下さい。石突き部先端が鋭い形状をしているので、取扱いを誤ると身体を傷つける恐れがあります。
- 三脚や収納ケースに入れた本機の運搬に際しては、背負いベルトやベルト固定部の点検を行って下さい。ベルトの破損や不完全な固定は、落下事故を引き起こす恐れがあります。
- 三脚を立てるときは、脚元に人の手・足が無いことを確かめて下さい。手・足を突き刺して怪我をする恐れがあります。
- 機器を乗せた三脚は脚の蝶ねじを確実に締めて下さい。不確かですと、三脚が倒れ怪我をする恐れがあります。
- 機器を三脚に据え付けるときは定心棒を確実に締めて下さい。不確かですと、機器が落下し怪我をする恐れがあります。
- 収納ケースは絶対に積み上げないで下さい。また、踏み台などにしないで下さい。プラスチックケースなので、滑り易く、不安定です。このような状況は、転げ落ちて怪我をしたり、機器の損傷などの事故に繋がる恐れがあります。
- 垂球を振り回したり、投げたりしないで下さい。人に当り怪我をする恐れがあります。
- 充電を行う前に、チャージャの使用説明書をよくお読み下さい。

保守・保管 操作の前に必ずお読み下さい！

- 本機を長時間にわたって強い直射日光にさらさないで下さい。また、炎天下で、窓を締め切った自動車内などに放置しないで下さい。本機が高温になり、性能を害する恐れがあります。
- 本機を雨中で使用した場合は、本機を横に傾け、装置の凹部にたまった水滴を落として下さい。また、装置に付いている水滴は拭き取り、乾燥させてから収納ケースに収めて下さい。防塵、防滴には十分配慮していますが、万が一内部に水滴、塵などが入り込むと故障の原因になります。
- 本機を低温の場所から急に温かい場所に持ち込まないで下さい。レンズが曇って、次の測距時に測距範囲が極端に短くなったり、電気系故障の原因となることがあります。やむを得ず急に温かい室内などに持ち込んだ場合は、ケースを開けずにしばらく放置して、本機の温度が周囲の温度とほぼ同じになるまで待ってから取り出して下さい。
- 装置の保管は高温多湿の場所を避けて下さい。特に電池は 30℃以下の涼しい場所に保管して下さい。高温多湿は、レンズにカビを発生させたり、電子部品の劣化を招き、性能に悪影響を与えます。
- 電池は、電気が残っていない状態での保管をお勧めします。
- 極端に温度が下がるような場所での保管は、ケースを開いたままにしておいて下さい。
- 各種クランプねじは必要以上に締め過ぎないで下さい。
- 微動ねじ、整準ねじはなるべく作動範囲の中央付近で使用して下さい。また、微動ねじはいつでも右回転して止めるように心掛けて下さい。作動範囲の中央位置は、指示ラインによって示されています。
- 操作パネルなどの非金属部分、および塗装部分、印刷部分の清掃には有機溶剤（エーテル、シンナーなど）を使用しないで下さい。変色や印刷文字のはがれの原因となります。中性洗剤または水を柔らかい布かティッシュペーパーに染み込ませて強く絞り、軽く拭いて下さい。
- レンズの汚れは、アルコールを柔らかい紙または布に含ませて静かに拭いて下さい。
- 焦点板カバーは適切な力で取り付けてあるため、強い力を加えたり、緩めたりしないで下さい。防水性が損なわれる恐れがあります。

保守・保管 操作の前に必ずお読み下さい！

- 電池ケースの取付けは、取付け面に異物がないことを確認した上で、着脱ボタンが電池ケース上面位置へ上がるまで十分押し付けて下さい。電池ケースが確実に取り付けられていないと防水性が損なわれる恐れがあります。
- 収納ケースにも防水性が考慮されていますが、長時間雨中に放置しないで下さい。作業等の関係でやむを得ない場合は[Nikon]銘板が上になるよう置いて下さい。
- 電池は地域自治体のルールに従って、適切に廃棄または処理して下さい。

LED(発光ダイオード)について

本製品はLEDを使用しています。LEDはレーザ安全規格上で「クラス1」として区分されています。製品を安全にご使用頂くために、下記の注意事項をお守り下さい。

警告

- 故意に人体に向けて使用しないで下さい。LEDは眼や人体に有害です。万一、LEDによる障害が疑われるときは、速やかに医師による診察処置を受けて下さい。
- 製品の分解、改造、修理は絶対に行わないで下さい。

注意

- 安全のため、始業点検、一定期間ごとの点検、調整を行って下さい。
- 測距時以外は電源を切るか、LED射出口をキャップなどで遮光するようにして下さい。
- LED製品は、誤って使われないように、子供など製品知識がない者の手に触れない場所に保管して下さい。
- 本製品を廃棄する場合は、LED光を出さないように、通電機能を破壊するなどの処置をして下さい。

目次

本書の警告／注意シンボルについて.....	i
操作の前に必ずお読み下さい.....	ii
警告と注意.....	ii
保守・保管.....	iv
1. 各部の名称	1-1
2. 観測準備.....	2-1
2-1. 本機の取出しと収納	2-1
2-2. 電池の充電と電池ケースの接続.....	2-2
2-3. 三脚の設置.....	2-5
2-4. 求心	2-6
2-5. 整準	2-8
2-6. 視準	2-9
2-7. プリズム反射鏡の組立て.....	2-10
2-8. 正・反観測.....	2-12
2-9. 収納ケースベルト.....	2-13
3. 操作方法.....	3-1
3-1. 液晶表示部と操作キー機能	3-1
1) 状態表示.....	3-3
2) 液晶照明、液晶濃度.....	3-4
3-2. 基本的な使い方.....	3-5
1) 電源を入れる.....	3-5
2) 電源を切る.....	3-5
3) 距離を測る.....	3-6
1. プリズム反射鏡を視準する	3-6
2. 測距する.....	3-7
3. 連続測距する.....	3-8
4) 画面の切替え.....	3-9
1. 画面を切り替える	3-9
2. 傾斜補正範囲外.....	3-10
5) 水平角0セットを行う.....	3-10

3-3. 応用観測.....	3-11
1) 2点間測定.....	3-12
1. 2点間距離測定（連続）.....	3-13
2. 2点間距離測定（放射）.....	3-14
2) 距離測設.....	3-15
1. 前後方向のみの距離測設.....	3-16
2. 前後左右方向の距離測設.....	3-17
3) オフセット観測.....	3-19
4) ホールド.....	3-21
3-4. 設定.....	3-22
1) 観測条件の設定.....	3-23
2) 初期設定.....	3-27
 4. 点検と調整.....	 4-1
4-1. 平盤気泡管.....	4-1
4-2. 円形気泡管.....	4-1
4-3. 求心望遠鏡.....	4-2
4-4. 高度目盛りの零点誤差.....	4-3
4-5. 器械定数.....	4-6
 5. 性能.....	 5-1
5-1. 本機.....	5-1
5-2. 標準構成品.....	5-3
 6. システム図.....	 6-1
 7. 主なメッセージと対応方法.....	 7-1

1. 各部の名称

キャリングハンドル

望遠鏡合焦リング

望遠鏡接眼レンズ

視度環

焦点板カバー

平盤気泡管

液晶表示部（正側）

操作キーボード
（正側）

操作キーの配置、機能は
p.3-1～p.3-4をご参照
下さい。

センタリング装置
クランプノブ

電池ケース着脱ボタン

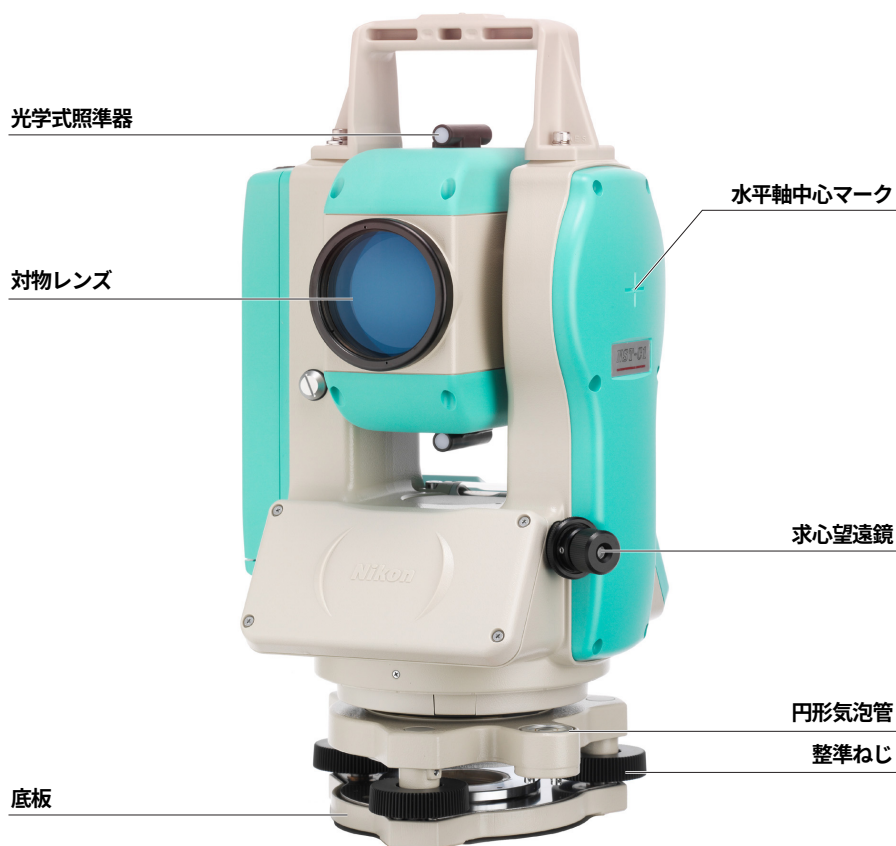
電池ケース

高度クランプ

高度微動ねじ

水平微動ねじ

水平クランプ



2. 観測準備

2-1. 本機の取出しと収納

- 注意**
- 本機に振動や衝撃を与えないように、注意して取り扱って下さい。
 - 収納は、電池ケースを装着した状態で行って下さい。

1) 取出し

本機は収納ケースの中に、図のような状態で収納されています。

キャリングハンドルを持って、本機に衝撃が加わらないように注意して取り出します。

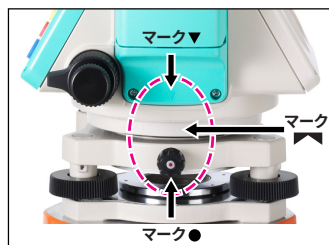


2) 収納

望遠鏡を「正の水平方向」に向け、収納用マークを合わせ、各部のクランプねじを軽く締めて、収めます。

収納用マークの合わせ方

上盤の▼マークと下盤の▲マーク、およびセンタリング装置クランプノブの●マークを合わせます。



2-2. 電池の充電と電池ケースの接続

2

観測準備

警告

- 本機に使用する電池は必ず弊社が指定する電池をご使用下さい。他の電池の使用は性能の低下や火災、火傷の恐れがあります。
- 電池およびチャージャの説明書を必ずお読みになり、安全に使用して下さい。
- 電池は必ず専用のチャージャで充電して下さい。他のチャージャを使うと、発火による火災、火傷の恐れがあります。
- 電池を座布団、衣類などを掛けた状態、密閉した状態で充電しないで下さい。発熱し、発火による火災、火傷の恐れがあります。特に、充電中に電池のガス抜き穴を塞ぐと、電池内部にガスが溜まることもあり、破裂の危険があります。
- 電池の充電は、湿気の多い場所、暖房器の近く、直射日光の当たる所、ほこりの多い所は避けて行って下さい。また、水に濡れた状態で充電しないで下さい。感電、発熱、火災の原因となります。
- 電池および電池ケースの電極をショートさせないで下さい。ショートさせると、火災、火傷の恐れがあります。
- 電池を火中に投げ込んだり、加熱しないで下さい。破裂して怪我をする恐れがあります。
- 電池を電池ケースに入れて保管する場合は、ショート防止のため、電極に絶縁テープを貼るなどの対策をして下さい。そのままの状態では保管すると、ショートによる火災、火傷の恐れがあります。
- 電池ケースはそれ単体では防水仕様ではありません。火災、火傷の恐れがあるため、単体の状態で水に濡らさないで下さい。

注意

- 充電を行う前に、チャージャの使用説明書をよくお読み下さい。

注意

- 充電は室内で、周囲温度が0℃～+40℃の場所で行って下さい。この温度範囲外で使用すると、保護機能が働き、正常な充電はできません。
- 充電開始後、チャージャの充電表示ランプが 0.5 秒おきに点滅した場合は、電池に何か異常があります。その電池は使用しないで、ご購入先か最寄りの弊社営業所へご連絡下さい。
- 所定の充電時間を超えても充電が完了しない場合は直ちに充電を中止し、ご購入先か最寄りの弊社営業所へご連絡下さい。(周囲温度が0℃以下になると、チャージャ内部の温度センサが働き、充電を休止します。このような場合、充電表示ランプは約 2 秒おきに点滅しますが、これは異常ではありません。周囲温度が0℃以上になり次第充電を開始します。)
- 充電完了した電池をそのまま繰り返し充電しないで下さい。電池の性能を劣化させます。
- 電池は充電中に多少温かくなりますが、異常ではありません。
- 弊社推奨品の電池は、約-20℃の低温下でもご使用頂けますが、電池容量は常温時に比べて減少し、連続使用時間も短くなります。
- 電池を本機やチャージャに入れて保管すると放電することがあります。電池を長期間(概ね 1 ヶ月以上)本機やチャージャに入れたまま保管しないで下さい。また長期間本機を使用しない場合は、電池の液漏れやサビを避けるため、電池ケースから電池を取り出して保管して下さい。
- バッテリーBC-65はこの機器に使用することはできません。

1) 充電手順

添付のチャージャ説明書をよくお読み下さい。

- (1) チャージャに電池を入れます。(電池はプラス側から入れマイナス側を押し込みます。)
- (2) チャージャのカバーを閉め、本体裏の電源プラグを引き起こしコンセントに差し込みます。
- (3) 自動的に充電が開始されます。充電表示ランプが点灯するのを確認して下さい。
- (4) 充電が終了すると充電表示ランプが消灯します。



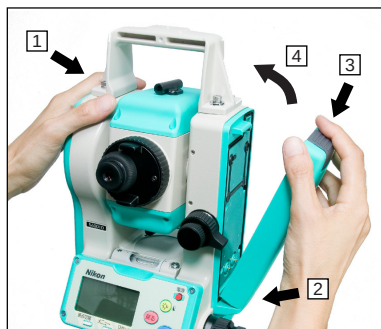
2) 電池ケースの取外し

- 注意**
- 取付け、取外しは必ず電源 OFF の状態で行って下さい。
 - 電池ケース接続用の電極には触れないで下さい。
 - 電池ケースの取付けは、取付け面に異物がないことを確認した上で、着脱ボタンが電池ケース上面位置へ上がるまで十分押し付けて下さい。電池ケースが確実に取り付けられていないと防水性が損なわれる恐れがあります。

電池ケースに手をそえ、電池ケース着脱ボタンを下に押すと、電池ケースが外れます。

3) 電池ケースの取付け

- (1) 充電済み電池を電池ケースに示してあるとおりの向きで電池ケースに入れます。
- (2) 電池ケース下部 2 箇所の凸部を本機の凹部に合わせます。
- (3) 一方の手で本機をささえ、電池ケースを押し込んで下さい。
- (4) 電池ケース着脱ボタンが上がっている事を確認します。



- 注意**
- 電池の極性を正しく入れて下さい。
 - 他の種類（型名）の電池を混ぜて使わないで下さい。
 - バッテリーBC-65 はこの機器に使用することはできません。

4) 指定電池

この機器の指定電池（添付電池）は以下の通りです。

- 三洋電機株式会社製 単 3 型ニッケル水素電池「eneloop」
- 型番: HR-3UTG

2-3. 三脚の設置

2

注意

- 三脚の取扱いには十分注意して下さい。石突き部先端が鋭い形状をしているので、取扱いを誤ると身体を傷つける恐れがあります。
- 三脚を立てるときは、脚元に人の手・足が無いことを確かめて下さい。手・足を突き刺して怪我をする恐れがあります。
- 機器を乗せた三脚は脚の蝶ねじを確実に締めて下さい。不確かですと、三脚が倒れ怪我をする恐れがあります。
- 機器を三脚に据え付けるときは定心桿を確実に締めて下さい。不確かですと、機器が落下し怪我をする恐れがあります。

- (1) 三脚の脚を適当な間隔に開きます。
- (2) 測点が脚頭中央の孔のほぼ真下にあることを確認します。
- (3) 石突きを十分に踏み込みます。
- (4) 三本の脚を伸縮させて、脚頭表面を水平にします。

注意 • 垂球を使って求心する場合は特に正確に水平にします。

- (5) 脚の中継部の蝶ねじを確実に締め付けます。
- (6) 本機を脚頭に乗せ、定心桿を底板中心のねじにねじ込み、固定します。

注意 • 本機を三脚に取り付けたまま運搬しないで下さい。

2-4. 求心

2

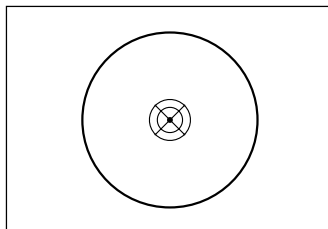
観測準備

本機の中心と測点とを同一鉛直線上に一致させることを「求心または致心」といいます。求心の方法は、垂球（下げ振り）を用いるか、または求心望遠鏡による場合の 2 通りがあります。

1) 求心望遠鏡による方法

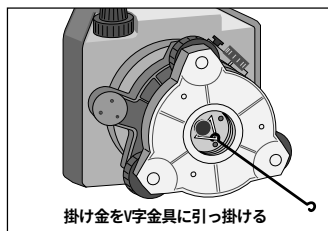
- 注意**
- 測点に対して高い場所で求心する場合は、求心の前に、必ず「[求心望遠鏡の点検と調整](#)」(p.4-2) を行って下さい。
 - 求心精度を高めるために、求心の前には「求心望遠鏡の点検と調整」を行うことをお勧めします。

- (1) 本機を脚頭に乗せ、三脚の定心桿を底板中心のねじにねじ込み、固定します。
- (2) 求心望遠鏡をのぞきながら整準ねじを回して、測点を焦点鏡の◎印の中心に入れます。
- (3) 脚頭を支えながら、三脚中継部の蝶ねじを緩めて、脚を伸縮させ、円形気泡管の気泡を中心に導きます。蝶ねじを締め付けます。
- (4) 平盤気泡管により本機を整準します。(p.2-8「[整準](#)」参照)
- (5) 求心望遠鏡をのぞき、測点が焦点鏡の◎印の中心に入っているかどうかを確認します。
- (6) 微小量のズレは、センタリング装置のクランプノブを緩めて、装置を摺動して修正します。ズレが大きいときは、手順(2)から繰り返します。



2) 垂球による方法

- (1) 垂球吊り紐の掛け金を用意します。
- (2) 掛け金を、本機の底板中心の奥にあるV字金具に引っ掛けます。
- (3) 掛け金を三脚の定心桿の孔に通してから、本機を脚頭に乘せます。
- (4) 定心桿を底板中心にねじ込み、固定します。
- (5) 垂球吊り紐を掛け金に引っ掛け、自在金で紐の長さを調節して、垂球先端を測点の高さに近づけます。
- (6) 定心桿をわずかに緩めます。整準台外周を両手で支えて脚頭上を滑らせ、垂球先端を測点の中心にだいたい合わせます。定心桿を締めます。
- (7) センタリング装置クランプノブを緩め、装置を摺動して、垂球先端を測点の中心に一致させます。クランプノブを締めます。



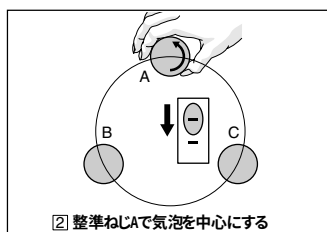
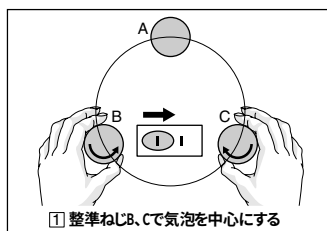
2-5. 整準

2

観測準備

本機の鉛直軸を鉛直にすることを整準といいます。ここでは平盤気泡管による方法を説明します。

- (1) 水平クランプを緩め、平盤気泡管を任意の2本の整準ねじ B、C を結ぶ線に平行に置きます。
- (2) 整準ねじ B、C を用いて、気泡を中心に導きます。
- (3) 上盤を約 90°回転させてから、整準ねじ A を用いて気泡を中心に導きます。
- (4) 手順(1) から(3) を繰り返し、図の両位置で気泡が中心に入るようにします。
- (5) さらに、(3) の状態から上盤を 180°反対方向にしたとき、気泡が中心からズレなければ、本機の整準は完了です。
- (6) ズれた場合は、[p.4-1「平盤気泡管の点検と調整」](#)をもとに、平盤気泡管を調整して下さい。

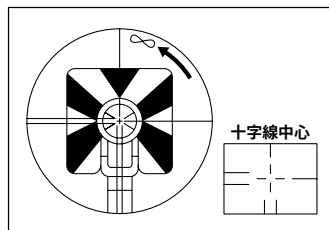


2-6. 視準

2

観測準備

望遠鏡をプリズム（目標）に向け、望遠鏡の十字線中心をプリズムの中心に合致させることを視準といます。



警告

- 望遠鏡で太陽や太陽反射光などを絶対に見ないで下さい。失明の原因となります。

視準の際は、次のことに注意して下さい。

注意

- 視度を合わせる。

望遠鏡接眼レンズをのぞきながら視度環を回して、十字線が黒く鮮明に見える位置に合わせます。

- 視差を除去する。

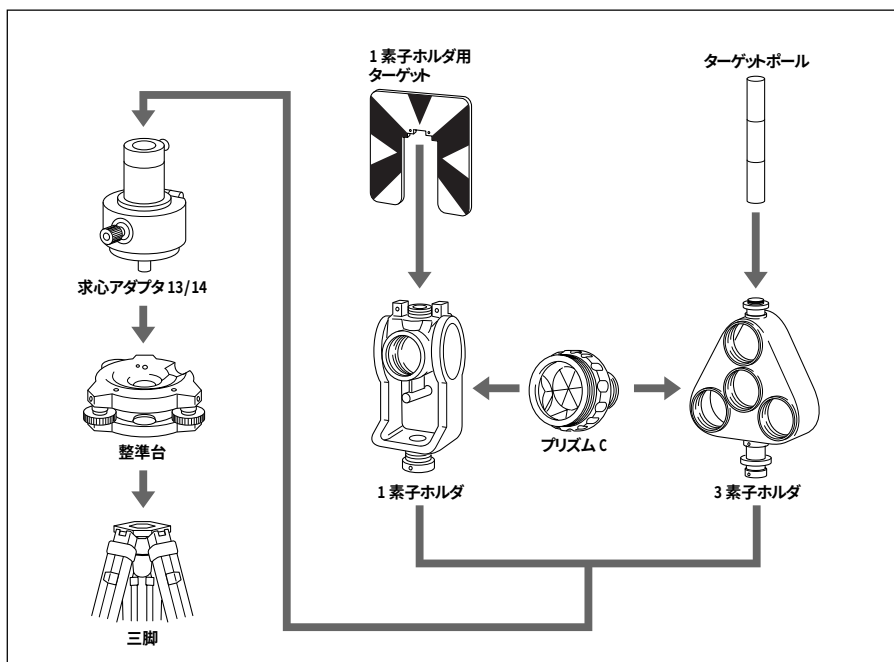
合焦リングを回して、目標のピントを十字線に合わせます。眼を左右または上下に少し振ってみて、目標が十字線に対して静止して見えれば、正しく合焦されたことになり、視差はありません。パラパラと動いて見える場合は、視差があるので、合焦リングを回して修正します。

2-7. プリズム反射鏡の組立て

2

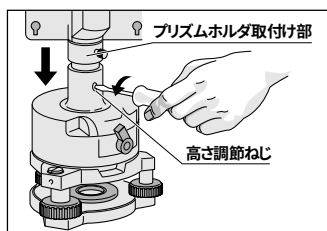
観測準備

プリズム反射鏡はイラストのように組み立てます。



1) 求心アダプタの高さ調節

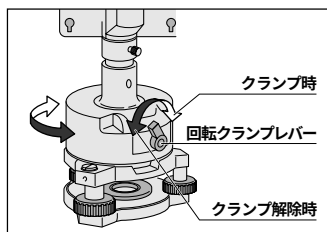
求心アダプタは、整準台取付け面からプリズムホルダ取付け面までの高さが 2 段階に変わります。高さの変更は、高さ調節ねじを外し、プリズムホルダ取付け部をスライドさせて、穴位置を合わせた後、高さ調節ねじを締めて固定します。



注意 • NST-C1 を使用する場合は、プリズムホルダ取付け部を下げた位置にして下さい。

2) プリズムの向き調節

求心アダプタ上盤部を回すことにより、取り付けしたプリズムの向きを、水平面内で自由に設定できます。回転クラムプレバーを反時計方向へ倒してクランプを解除し、上盤部を回転します。位置が決まったら、クランプレバーを時計方向へ戻してクランプします。



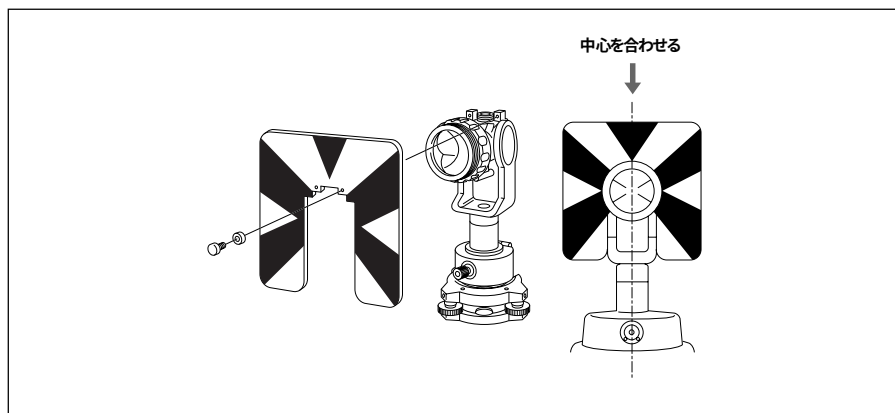
3) プリズム定数

プリズムは 1 素子または 3 素子ホルダに取り付けます。いずれのホルダに取り付けた場合も、「定数は 0」です。

- 3 素子ホルダの中心のねじにプリズムを 1 個取り付け、1 素子ホルダとしても使用できます。

4) ターゲットの位置

ターゲットは、求心アダプタとプリズムの中心を結ぶ線上に、ターゲットのくさび形の頂点が来るように、ねじ穴の範囲で調整します。



2-8. 正・反観測

2

観測準備

正の観測：高度目盛りが左側にある状態で、望遠鏡接眼レンズをのぞいて観測すること。
反の観測：高度目盛りが右側にある状態で、望遠鏡接眼レンズをのぞいて観測すること。

注意 • 望遠鏡を回転させる際は、支柱部とのすき間に指を挟まないように注意して下さい。

- 正・反の両観測を行って平均値をとれば、本機の器械的な定誤差はほとんど消去することができます。(鉛直軸誤差などの特殊な誤差は除きます。)できるだけ正・反観測を行うよう心掛けて下さい。



正観測



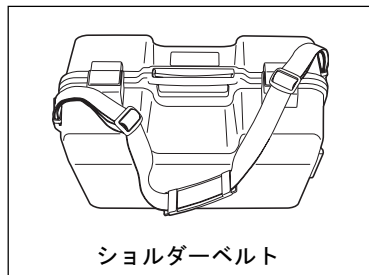
反観測

2-9. 収納ケースベルト

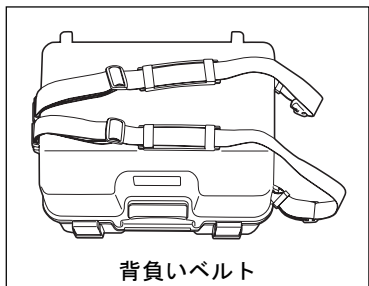
2

観測準備

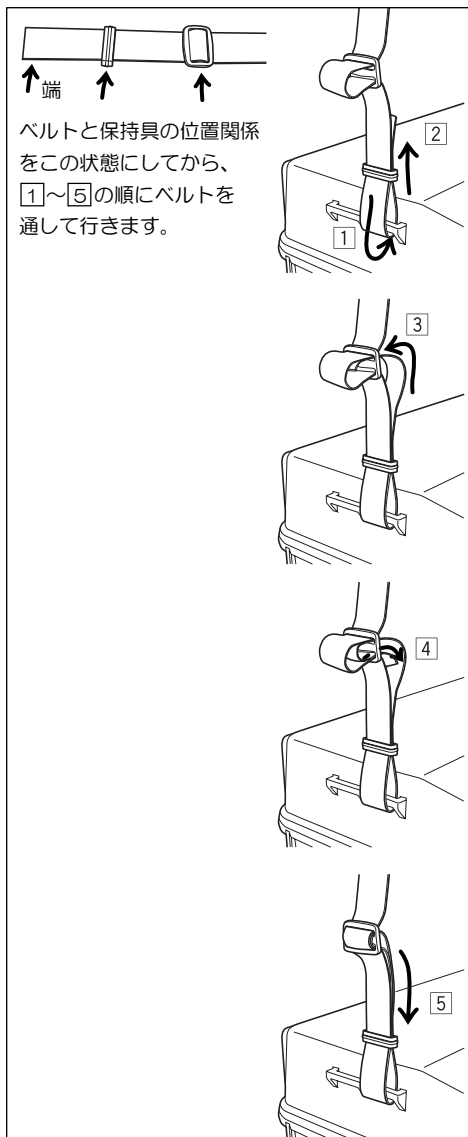
キャリングハンドル側にベルトを1本付けるとショルダーベルトとして使用できます。



銘板側にベルトを2本付けると、背負いベルトとして使用できます。



ベルトとキャリングケースの固定には、ベルトの端が出ない下図の方法をお薦めします。



この頁に内容はありません。

3. 操作方法

3-1. 液晶表示部と操作キー機能

照明キー

液晶照明の ON/OFF を行います。
1 秒以上押し続けると、液晶濃度調整画面が表示されます。



光量状態

光量状態を段階的に表示します。(p.3-3 参照)

液晶照明状態

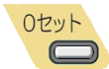
液晶照明状態を表示します。(p.3-4 参照)

傾斜補正状態

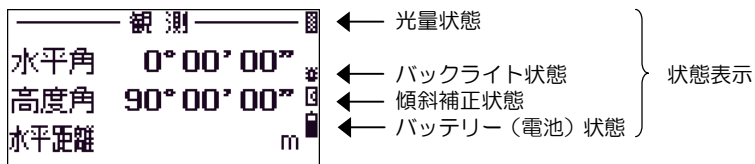
傾斜補正状態を表示します。(p.3-10 参照)

バッテリー(電池)状態

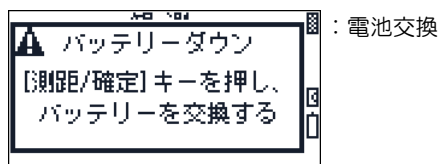
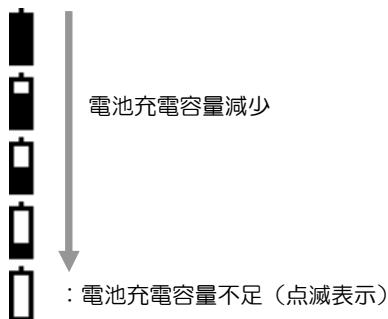
バッテリー（電池）の残量を 5 段階で表示します。(p.3-3 参照)

キー	主な機能	参照
	電源の ON/OFF を行います。	p.3-5
	液晶照明の ON/OFF を行います。 1 秒以上キーを押し続けると、液晶濃度調整画面が表示されます。	p.3-4
	観測画面では、測距を行います。 項目選択時などは、確定キーとして機能します。	p.3-6
	各機能から復帰するときに使用します。 測距時に押すと、測距動作を停止します。	—
	複数の表示画面がある場合に、画面の切替えを行います。 また、このキーの上の表示が反転している場合、表示内容の動作を行います。	p.3-9
	メニュー画面を表示します。(1.2 点間距離、2.距離測設、3.オフセット観測、4.ホールド、5.観測条件、6.初期設定、7.0 点調整) また、このキーの上の表示が反転している場合、表示内容の動作を行います。	p.3-11
	角度の0セットを行います。 また、このキーの上の表示が反転している場合、表示内容の動作を行います。	p.3-10

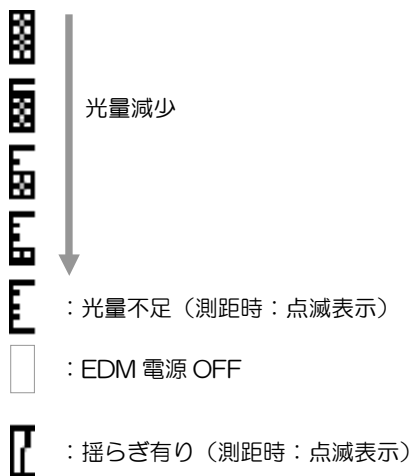
1) 状態表示



1. バッテリー（電池）状態



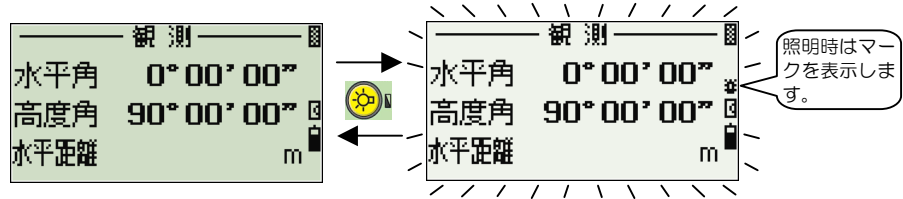
2. 光量状態



2) 液晶照明、液晶濃度



【照明】キーを押すと、液晶照明の ON/OFF を行うことができます。



【照明】キーを 1 秒以上押し続けると、液晶濃度の調整を行うことができます。



- 薄く、濃くで液晶濃度の調整を行います。

【戻る】キーで終了します。

3-2. 基本的な使い方

1) 電源を入れる

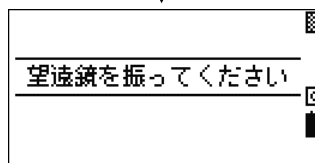


【電源】キーを押すと、起動画面が表示されます。

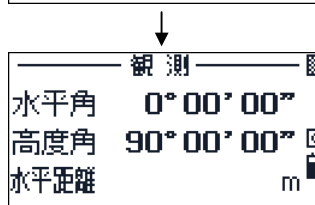


望遠鏡を正の観測状態にして、上下に振って下さい。

(望遠鏡を振ることにより、高度目盛りの0位置が設定されます。)



基本観測画面が表示されます。



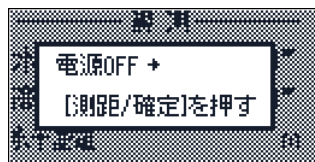
2) 電源を切る



【電源】キーを押すと、右の終了画面が表示されます。

【測距/確定】キーを押すと、終了します。

【戻る】キーを押すと、元の画面に戻ります。



3) 距離を測る

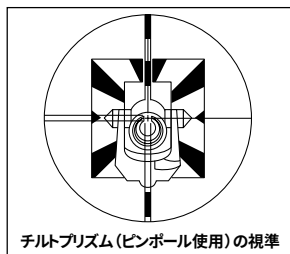
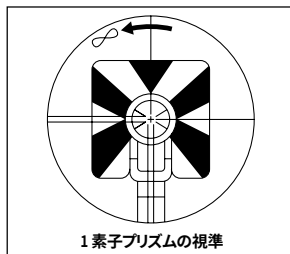


1. プリズム反射鏡を視準する

警告

望遠鏡で、太陽や太陽反射光などを絶対に見ないで下さい。失明の原因となります。

望遠鏡の十字線中心をプリズム（ターゲット）の中心にあわせませう。反射光を受信すると光量値が表示されます。



近距離の視準

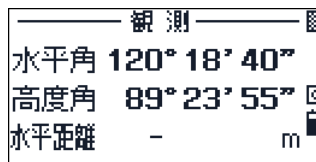
- 近距離のときは、特に正確に視準して下さい。

2. 測距する

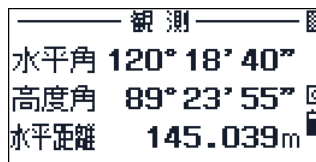
観測画面で【測距/確定】キーを押すと、測距が開始されます。



測距中は距離表示位置に「————」（レフシート時は「」）」が走り、測距中であることを示します。



測距が完了すると、測距結果を表示し自動的に測距を終了します。



測距を中断する場合は【戻る】キーを押します。

光量不足の場合は、測距中に光量状態表示が点滅します。（[p.3-3 参照](#)）

プリズム定数

- 【メニュー】⇒「5.観測条件 ⇒ 4.プリズム定数」でプリズム定数を設定することができます。（[p.3-25 参照](#)）

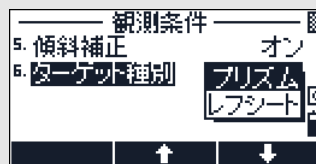


プリズム定数を0以外に設定した場合には、測距中に、<30mm>のように、設定したプリズム定数が表示されます。



ターゲットの設定

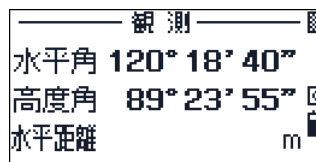
- 【メニュー】⇒「5.観測条件 ⇒ 6.ターゲット種別」でターゲットの設定を行います。(p.3-26 参照)



- ターゲットの設定は正しく行って下さい。正しく設定されていないと、仕様の精度で観測できない場合があります。
- ターゲットを切り替えた直後の測距では、通常より測距時間がかかる場合があります。

3. 連続測距する

観測画面で【測距/確定】キーを1秒以上押し続けると、連続測距が開始されます。



を1秒以上押し続ける



連続測距

連続測距を中止するには【戻る】キーを押します。

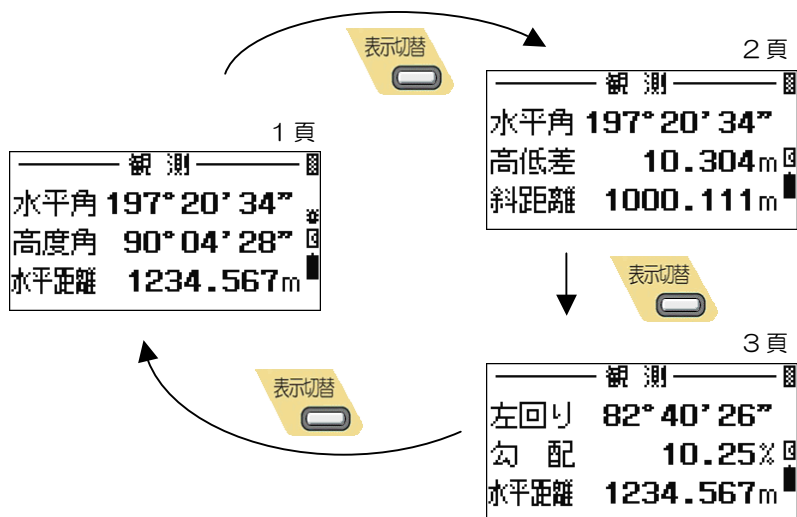
4) 画面の切替え

表示切替



1. 画面を切り替える

基本観測画面表示時に【表示切替】キーを押すと、画面表示を切り替えることができます。全部で3画面あります。



	1 頁	2 頁	3 頁
上段	水平角 (HA)	水平角 (HA)	左回り (HL)
中断	高度角 (VA)	高低差 (VD)	勾配 (V%)
下段	水平距離 (HD)	斜距離 (SD)	水平距離 (HD)

2. 傾斜補正範囲外

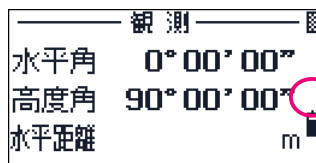
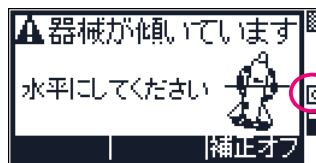
基本観測画面表示時に、傾斜補正範囲外となった場合、右の警告画面が表示されます。

整準を行い、補正範囲内になると、警告が消え、自動的に元の画面に復帰します。

傾斜補正を行わないようにするには、ここで**補正オフ**を押します。

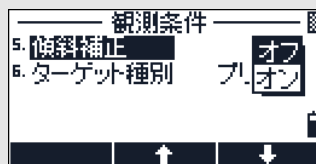
警告が消え、元の画面に戻ります。

また、状態表示の傾斜補正マークが消えます。



傾斜補正の設定

- 傾斜補正範囲外の警告で、傾斜補正をオフにした場合、以降の観測では傾斜補正が行われません。再度傾斜補正の設定を有効にするには、【メニュー】⇒「5.観測条件 ⇒ 5.傾斜補正」で設定を行います。(p.3-25 参照)
- 本器械では、起動時に必ず傾斜補正が有効となります。



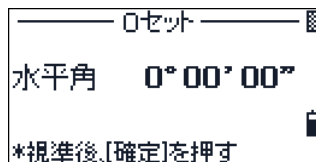
5) 水平角0セットを行う

0セット

【0セット】キーを押すと、水平角の0セットが行われます。

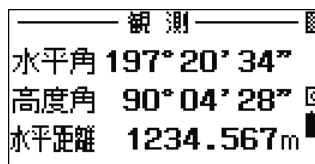
0方向を視準し、【測距/確定】キーを押すと、現在の水平角が0°00'00"となり、基本観測画面に戻ります。

0セットを中断する場合は、【戻る】キーを押します。



3-3. 応用観測

基本観測画面より【メニュー】キーを押すと、メニューが表示されます。



↓【メニュー】

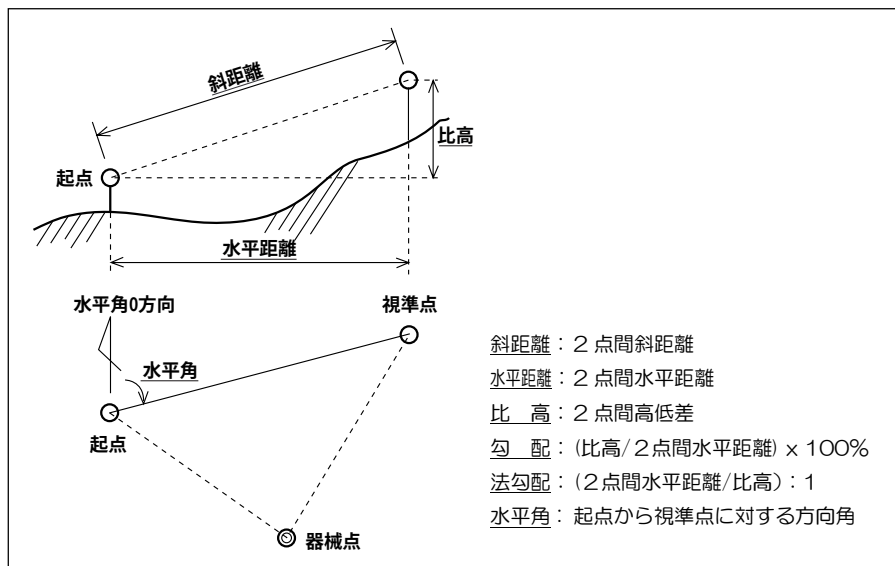
メニューの1～4は応用観測機能となっています。



1. 2点間測定	2点を計測することにより、2点間のさまざまな距離・方向角を計測します。
2. 距離測設	既定の距離を予め入力し、測距することにより、差分距離を計測します。また幅を設定することにより、前後、左右方向の差分距離を計測します。
3. オフセット観測	観測した点が基準方向から前後、左右方向にどのくらい距離があるか計測します。
4. ホールド	水平角の増減を固定し、任意の方向で再開することができます。

1) 2 点間測定

任意の 2 点間の、水平距離、高低差、斜距離を測ります。

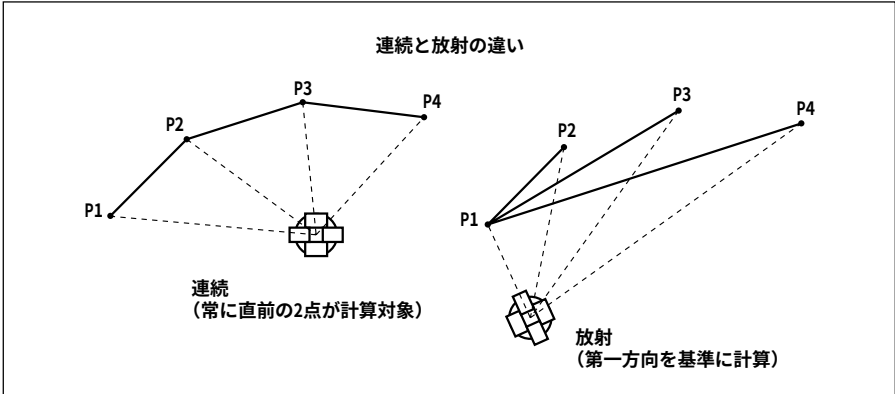


基本観測画面から【メニュー】キーを押し、「1.2点間測定」を選択します。



観測方法の選択を行います。

- 連続：直前の測点と、最終計測点を測ります
- 放射：1 点目の測点と、最終計測点を測ります



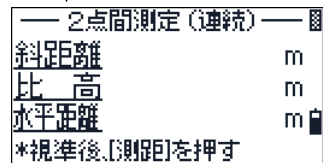
1. 2 点間距離測定(連続)

直前の測点と、最終計測点を測ります。

連続 を選択します。



1 点目の観測点を視準し、【測距/確定】キーを押します。



器械点から起点までの距離が表示されます。

2 点目以降の観測では、前点から視準点までの距離が表示されます。

斜距離：2 点間の斜距離

比 高：2 点間の高低差

水平距離：2 点間の水平距離

【表示切替】キーを押すと、画面が切り替わります。

水平角：起点から視準点に対する方向角

勾 配：(比高/2点間水平距離) × 100%

法勾配：(2点間水平距離/比高)：1

— 2点間測定(連続) —	
斜距離	101.334m
比 高	1.745m
水平距離	100.595m
*視準後、[測距]を押す	

↑ 【表示切替】 ↓

— 2点間測定(連続) —	
水平角	67°53'04"
勾 配	5.03%
法勾配	19.90:1
*視準後、[測距]を押す	

2. 2 点間距離測定(放射)

1 点目(基点)と、最終計測点の距離を測ります。

放射 を選択します。

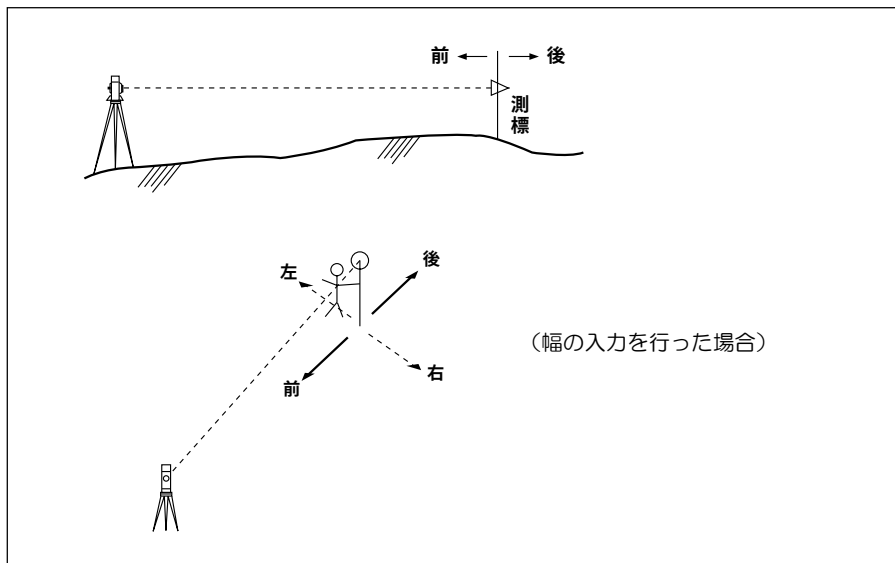


— 2点間測定(放射) —	
斜距離	m
比 高	m
水平距離	m
*基点視準後、[測距]を押す	

操作手順は **連続** と同様です。(p.3-13参照)

2) 距離測設

距離測設は既定の距離を予め入力し、測距することにより、距離誤差を計測します。また幅を設定することにより、前後、左右方向の距離誤差を計測します。



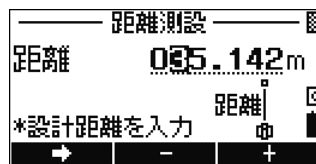
基本観測画面から【メニュー】キーを押し、「2.距離測設」を選択します。



1. 前後方向のみの距離測設

手入力した距離データによって、測設を行う。

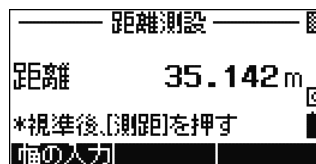
既定の距離を入力します。



距離の入力方法

- **➡** を押すと、反転カーソルが1桁右に移動します。最終桁の場合、カーソルは先頭桁に移動します。
- **-** を押すと、反転カーソル位置の値を-1します。値が0の場合、9に戻ります。
- **+** により、反転カーソル位置の値を+1します。値が9の場合、0に戻ります。
- **【測距/確定】**キーにより、入力を確定します。
- **【戻る】**キーにより、入力を破棄します。

距離の入力を行い、プリズムを視準します。
続いて、**【測距/確定】**キーにより、測距を開始します。



器械からプリズムまでの水平距離と、入力した距離と水平距離の誤差が表示されます。



誤差表示の距離だけターゲットを移動させ、再度測距を行います。

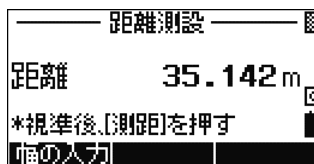
誤差表示が「0」となる位置が目的点です。

終了キーにより距離測設を終了し、メニュー画面に戻ります。

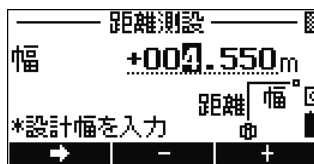
2. 前後左右方向の距離測設

距離、幅の入力によって、前後・左右方向の測設を行います。

「1. 前後方向のみの距離測設」で、距離の入力を行った後、**幅の入力** を押し、幅の入力を行います。



↓ 幅の入力



幅の符号は、

(+) = 器械から観測点に向かって右

(-) = 器械から観測点に向かって左

にあることを示します。

幅の入力方法

- **[→]** を押すと、反転カーソルが1桁右に移動します。最終桁の場合、カーソルは先頭桁に移動します。
- **[-]** を押すと、反転カーソル位置の値を-1します。値が0の場合、9に戻ります。
- **[+]** により、反転カーソル位置の値を+1します。値が9の場合、0に戻ります。
- カーソルが先頭符号位置で **[-]** を押すと符号がー(マイナス)となります。
- カーソルが先頭符号位置で **[+]** を押すと符号が+(プラス)となります。
- **【測距/確定】**キーにより、入力を確定します。
- **【戻る】**キーにより、入力を破棄します。

幅の入力が確定すると、続いて基準方向を視準します。基準方向とは、幅を算出するにあたり、0位置となる方向のことです。

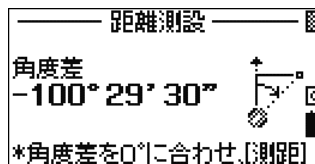


【測距/確定】キーを押すと、基準方向が確定されます。

基準方向が確定すると、測設を行う点の方向が表示されます。

角度差が「0° 00' 00」となるように本体を回転し、水平角を固定します。

続いて望遠鏡から観測した視野に、左右方向が均等に見えるようにターゲットを移動します。



プリズムを視準後、【測距/確定】キーを押し、測距を開始します。



測距が完了すると、誤差の表示が行われます。

水平距離：測設点までの水平距離

前／後： 前後方向の誤差

左／右： 左右方向の誤差



表示切替 を押すと、表示内容が切り替わります。

水平距離：測設点までの水平距離

角度差： 測設点までの誤差角

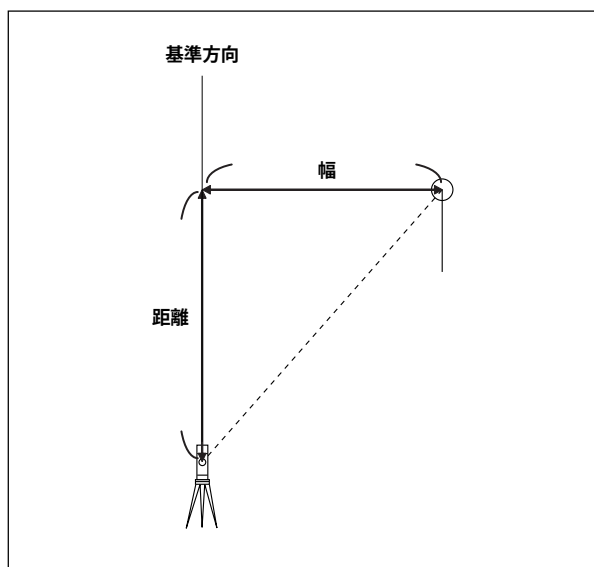
再度 **表示切替** を押すことにより、元の画面に戻ります。



終了 を押すことにより、距離測設を終了し、メニュー画面に戻ります。

3) オフセット観測

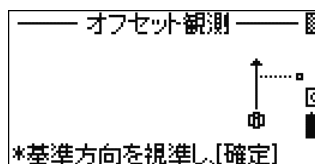
オフセット観測は測距を行った点を基準方向に対する距離と幅で表します。



基本観測画面から【メニュー】キーを押し、「3.オフセット観測」を選択します。



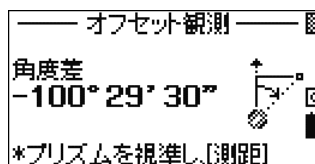
基準方向を視準し、【測距/確定】キーを押します。



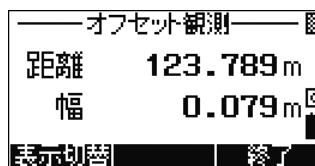
プリズムを視準します。

このとき、基準方向からの角度差が表示されます。

視準後、【測距/確定】キーを押すと、測距を開始します。



測距が完了すると、距離、幅の値が表示されます。



表示切替 を押すと、表示内容が切り替わり、観測点の情報が表示されます。

再度 表示切替 を押すことにより、元の画面に戻ります。



終了 を押すことにより、オフセット観測を終了し、メニュー画面に戻ります。

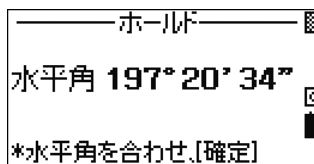
4) ホールド

ホールドは水平角の増減を固定し、任意の方向で再開することができます。

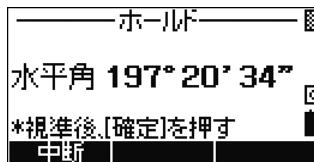
基本観測画面から【メニュー】キーを押し、「4.ホールド」を選択します。



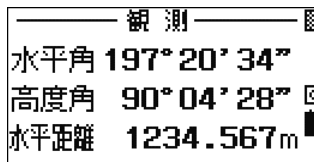
水平角を任意の値に合わせ、【測距/確定】キーを押すと水平角が固定され、ホールドを開始します。



ホールドした値を設定したい方向を視準し、【測距/確定】キーを押します。



設定した値が水平角に反映され、基本観測画面に戻ります。

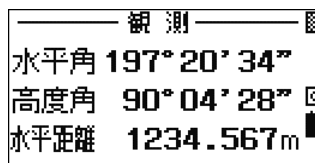


ホールドを中断する場合は、**中断**を押します。これにより水平角は設定されず、基本観測画面に戻ります。

3-4. 設定

メニューの5～7には設定機能が割り当てられています。

基本観測画面より【メニュー】キーを押すと、メニューが表示されます。



↓【メニュー】

メニュー画面より 次頁 を押します。



↓ 次頁

次頁が表示されます。

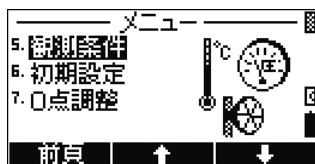


5. 観測条件	観測に関する条件設定を行います。
6. 初期設定	器械の初期設定を行います。
7. 0点調整	高度目盛り零点誤差の調整を行います。 p.4-3 参照

1) 観測条件の設定

観測に関する条件の設定を行います。

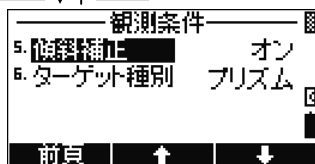
【メニュー】次頁から、「5.観測条件」を選択します。



観測条件メニューが表示されます。



次頁 ↓ ↑ 前頁



測距回数	測距回数の設定を行います。 設定範囲：1～9 回
気温	気温の設定を行います。 設定範囲：－40℃～60℃
気圧	気圧の設定を行います。 設定範囲：533hPa～1332hPa
プリズム定数	プリズム定数の設定を行います。 設定範囲：－99mm～99mm
傾斜補正	傾斜補正の設定を行います。 設定値：ON/OFF
ターゲット種別	ターゲット種別の設定を行います。 設定値：プリズム／レフシート

●測距回数の設定

測距回数を1以外に設定すると、設定した回数測距が行われ、最後に平均値が計算され、表示されます。



値の入力方法について

各設定にて値を入力する場合、共通処理として以下の方法で行います。

- ・ 反転カーソルで選択し、【測距/確定】キーを押します。
- ・ **[-]** または **[+]** を押し、値を調整します。
- ・ 【測距/確定】キーで変更を確定します。
- ・ 設定を中止する場合は【戻る】キーを押します。



値を-1 値を+1

●気温の設定

気温は気圧と共に測距値の補正を行います。気温が正確に設定されていないと、測定した測距値に誤差が生じます。



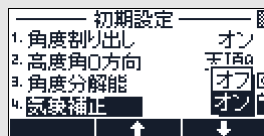
●気圧の設定

気圧は気温と共に測距値の補正を行います。気圧が正確に設定されていないと、測定した測距値に誤差が生じます。



気温、気圧について

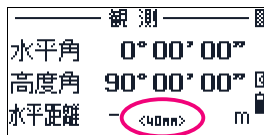
- ・ 気温、気圧の入力を行っても、初期設定で気象補正の設定がオフに設定されてる場合は気象補正が行われません。



●プリズム定数の設定

ターゲットに使用するプリズム定数の入力を行います。

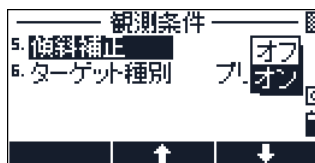
0以外の値に設定している場合は、測距中にプリズム定数の値が表示されます。



●傾斜補正の設定

傾斜補正は器械の傾きを検出し、自動的に補正します。

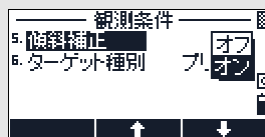
但し、補正可能な範囲は±3"ですので、器械設置時には気泡管を使用して整準作業が必要です。



選択値の変更方法について

各設定にて選択値を変更する場合、共通処理として以下の方法で行います。

- 反転カーソルで項目を選択し、【測距/確定】キーを押すと、選択可能な一覧が表示されます。
- または を押し、反転カーソルで項目を選択します。
- 【測距/確定】キーで変更を確定します。
- 設定を中止する場合は【戻る】キーを押します。



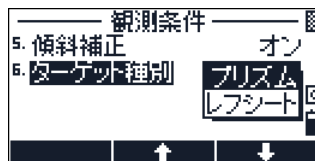
値を-1 値を+1

傾斜補正の設定について

- 傾斜補正は誤操作を防止するため、器械起動時には必ず**オン**に設定されます。

●ターゲット種別の設定

観測するターゲットの種別を設定します。



ターゲット種別の設定について

- ターゲット種別が、実際に測定するターゲットの種別と異なって設定されていても測距動作は行われます。しかし、正しいターゲットが設定されていないと、仕様の精度で測距できない場合がありますので、正しいターゲットに設定する必要があります。

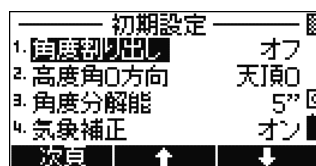
2) 初期設定

器械の初期設定を行います。

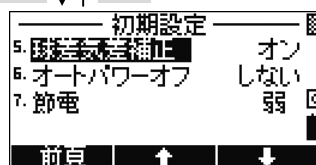
【メニュー】次頁から、「6.初期設定」を選択します。



初期設定メニューが表示されます。



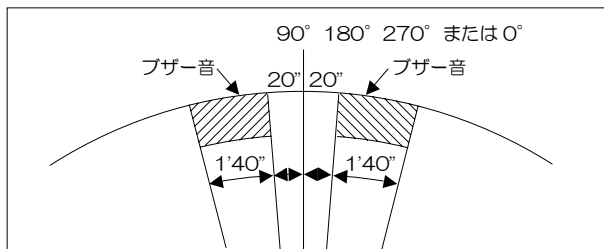
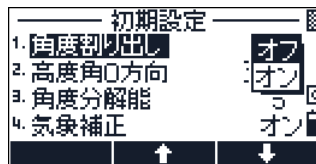
次頁 ↓ ↑ 前頁



角度割り出し	角度割り出し機能の設定を行います。 設定値：オフ／オン
高度角0方向	高度角の0方向設定を行います。 設定値：天頂0／水平0／コンパス
角度分解能	角度分解能の設定を行います。 設定値：5"、10"、20"
気象補正	気象補正の設定を行います。 設定値：オフ／オン
球差気差補正	球差気差補正の設定を行います。 設定値：オフ／オン
オートパワーオフ	オートパワーオフの設定を行います。 設定値：しない／10分後／30分後
節電	節電の設定を行います。 設定値：しない／弱／中／強

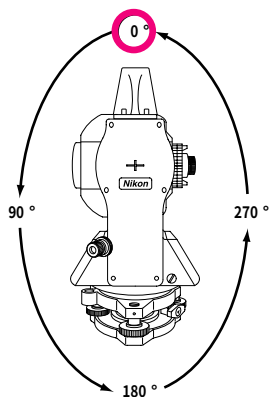
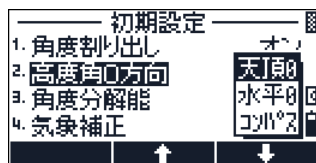
●角度割り出し

角度割り出しを“オン”に設定すると、水平角が図のような範囲でブザーが鳴ります。これにより、角度割り出しが容易に行えます。

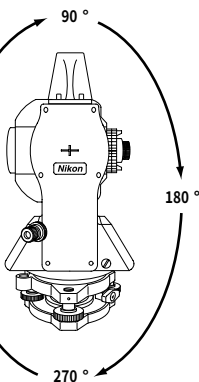


●高度角0方向

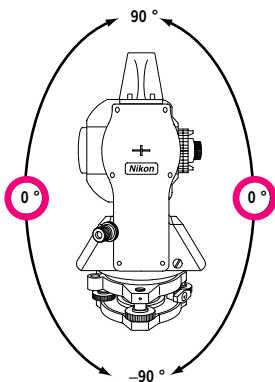
高度角0方向は、設定により高度角の0位置が変わります。図のように3種類のタイプが選択可能です。



天頂0°



水平0°

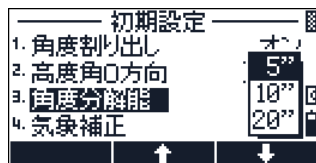


コンパス目盛り

●角度分解能

水平角および高度角の表示する最小分解能を設定します。

5 “ / 10” / 20” から選択可能です。

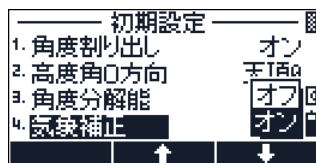


●気象補正

気象補正は気温、気圧の変化により発生する測距時の誤差を補正します。

オフに設定すると、気象補正は行われません。

気象補正は以下の数式により補正されます。



SD = 補正前の斜距離 SD' = 補正後の斜距離

K = 気象補正係数 P = 気圧 (hPa) T = 気温 (°C)

$$K = 275 - \frac{106 \times P \times \left(\frac{10000.0}{13.5951 \times 980.665} \right)}{273 + T}$$

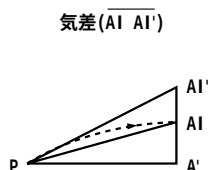
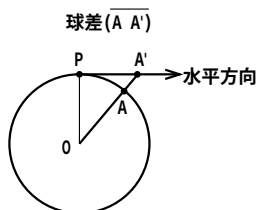
$$SD' = \left(1 + \frac{K}{1000000} \right) \times SD$$

●球差気差補正

地球表面は曲面のため、測定点における水平平面を判定基準とすると、比高（VD および Z）に誤差（球差）が生じます。

地球は地表に近いほど密度が大きな空気層に取り囲まれているので、光線は屈折しながら進みます。この光の屈折による誤差を気差といいます。

球差気差補正はこれらの誤差を補正します。



球差気差補正は以下の数式により補正されます。

HD= 補正前の水平距離

HD'= 補正後の水平距離

VD= 補正前の鉛直距離

VD'= 補正後の鉛直距離

SD= 斜距離

VA = 鉛直角

k = 係数 (0.133)

Re = 平均曲率半径 (6370Km)

SD= 補正前の斜距離

SD'= 補正後の斜距離

K = 気象補正係数

P = 気圧 (hPa)

T = 気温 (℃)

$$HD' = HD - \frac{SD^2 \sin(2VA)}{2R_e} \left(1 - \frac{k}{2}\right)$$

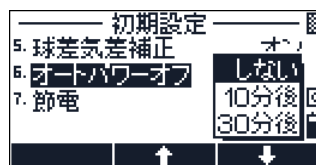
$$VD' = VD + \frac{HD^2}{2R_e} (1 - k)$$

●オートパワーオフ

オートパワーオフを設定することにより、以下の条件が設定時間内に発生しない場合、自動的に電源を切ります。

- 角度の変化
- 測距動作
- キー入力

“しない”に設定した場合、オートパワーオフ機能は無効となります。



●節電

節電を設定することにより、電池消費量をセーブします。



	測距後 EDM 電源オフまでの時間	スリープになるまでの時間
弱	3分	5分
中	30秒	3分
強	測距直後	1分

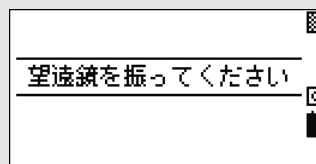
※ スリープとは、一定時間オートパワーオフになる条件が続いた場合、バックライト等を消して CPU を節電状態として消費電力をセーブします。この時画面には“節電中”と表示されます。

工場出荷設定に戻すには？

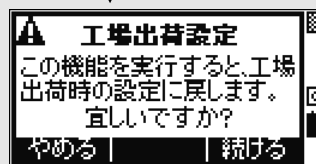
- すべての設定値を工場出荷状態に戻すには、電源 ON 後、望遠鏡を振る前に、【戻る】キーを押し、続いて【メニュー】キーを押します。

工場出荷設定に戻す警告が表示されます。

【続ける】を押すと、すべての設定が工場出荷状態に戻ります。



↓ 【戻る】、【メニュー】



この頁に内容はありません。

4. 点検と調整

4-1. 平盤気泡管

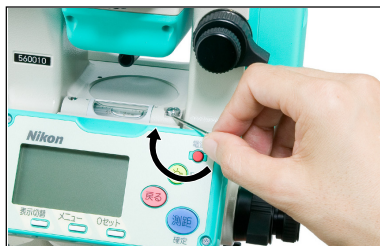
気泡管軸を鉛直軸に対して直角にします。

1) 点検

- (1) 本機を三脚に設置し、「2-5. 整準」(p.2-8) を完了します。
- (2) 上盤を約 180°回転させます。
- (3) 気泡が中央にあるかどうかを確認し、中央にあれば調整は不要です。ズれている場合は調整を行います。

2) 調整

- (1) 平盤気泡管調整ねじを調整ピンで回し、気泡をズレ量の半分だけ中央に近づけます。
- (2) 残りのズレ量は、整準ねじ A (p.2-8、[図参照](#)) を使用して、気泡を中央に導きます。
- (3) 再度点検します。



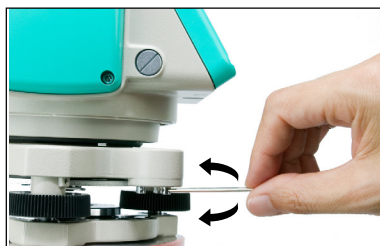
4-2. 円形気泡管

1) 点検

平盤気泡管の調整完了後、気泡が中心円に対してズれているかどうかを確認し、中心にあれば調整は不要です。中心にない場合は調整を行います。

2) 調整

- 3 個の円形気泡管調整ねじを調整ピンで回して気泡を中心に導きます。

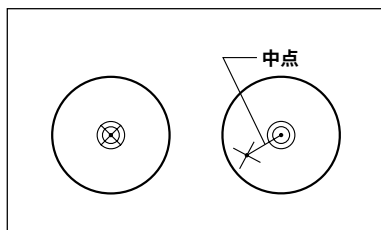
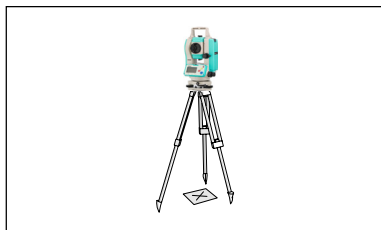


4-3. 求心望遠鏡

求心望遠鏡の光軸を鉛直軸に一致させます。

1) 点検

- (1) 本機を三脚に設置します。(整準は不要)
- (2) ×印を描いた白紙を本機の真下に置きます。
- (3) 求心望遠鏡をのぞきながら、整準ねじを用いて×印を焦点板の◎の中心に入れます。
- (4) 上盤を 180°回転させます。
- (5) ×印が◎の中心にあれば調整は不要です。ズレたときは調整して下さい。



2) 調整

- (1) 求心望遠鏡調整ねじをヘクスキーで回し、×印を、×印と◎の中心を結ぶ線分の midpoint に一致させます。
- (2) 再度点検します。



4-4. 高度目盛りの零点誤差

1) 点検

- (1) 本機を三脚に設置し、整準します。
 - (2) 望遠鏡正の位置で、水平面より $\pm 10^\circ$ 以内にある任意の目標 P を視準し、高度角 Vr を読みとります。
 - (3) 望遠鏡を反の位置に変え、再び P を視準し高度角 VI を読みとります。
 - (4) 高度角： $\lt$ 初期設定モードにて天頂 0° に設定されている場合 $\gt$
$$Vr + VI = 360^\circ$$
$$\lt$$
 水平 0° に設定されている場合 $\gt$
$$Vr + VI = 180^\circ \text{ (又は } 540^\circ \text{)}$$
- であれば調整は不要です。

- 上記の角度 (360° 、 180° 、 540°) に対する誤差 ($2e$) を高度定数とよびます。
高度定数は零点誤差 (e) の 2 倍で、次の手順により補正します。
ただし、コンパス目盛りの場合、高度定数とはなりませんので、前記の読みとり方式 (天頂 0° か水平 0°) に変更の上、確認して下さい。

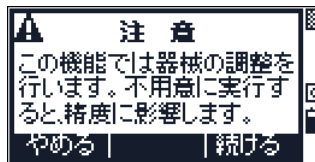
2) 調整

「高度定数、チルトセンサオフセット」の設定を行います。

「7. 0 点調整」を選択します。
高度目盛りの 0 点調整プログラムを起動します。



注意書きが表示されますが、よろしければ **続ける** を押します。



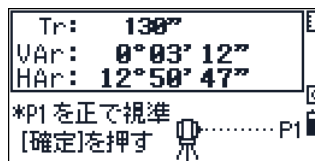
正側観測を行います。

P1 を視準し、【測距/確定】キーを押します。

Tr: 正側で観測した傾斜角

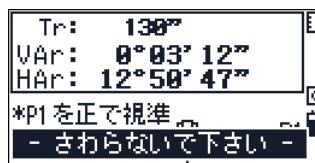
VAr: 正側で観測した高度角（傾斜補正 OFF の値）

HAr: 正側で観測した水平角（傾斜補正 OFF の値）



- 高度角 (VAr) は、水平 0 (→) の設定で表示されます。

【測距/確定】キー押した後、2、3 秒角度が落ち着くのを待ちます。「一さわらないで下さい」のメッセージが最下段に点滅している間は、器械をさわらないで下さい。



その後、「望遠鏡を反側へ」のメッセージに変わります。望遠鏡を反側に向けて下さい。



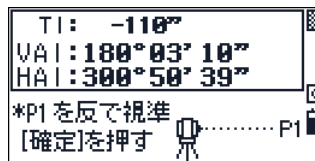
反側観測を行います。

P1 を視準し、【測距/確定】キーを押します。

TI: 反側で観測した傾斜角

VAI: 反側で観測した高度角（傾斜補正 OFF の値）

HAI: 反側で観測した水平角（傾斜補正 OFF の値）

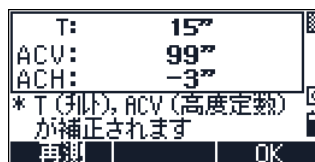


P1 の正反観測を終了します。観測結果が表示されます。

T: $(Tr + TI) \div 2$

ACV: $(VAr + VAI - 180^\circ) \div 2$

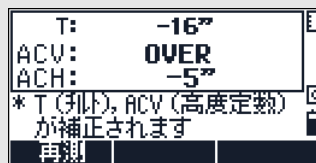
ACH: $(HAr - HAI - 180^\circ) \div 2$



再測 または【戻る】キーを押すと、正側観測に戻ります。

OK または【測距/確定】キーを押すと、各定数（T＝チルト、ACV＝高度定数）が設定され、次画面へ進みます。（ACH＝視準軸誤差 は設定されません。）

- ACV、T どちらかが、 $\pm 3'$ を越えた場合は、「OVER」と表示されます。画面下の「再測」キーを押して、正側観測に戻ります。



- ACH(視準軸誤差)の値は設定されません。 $\pm 30''$ を超えた場合には「OVER」と表示されますが再測は必要ありません。

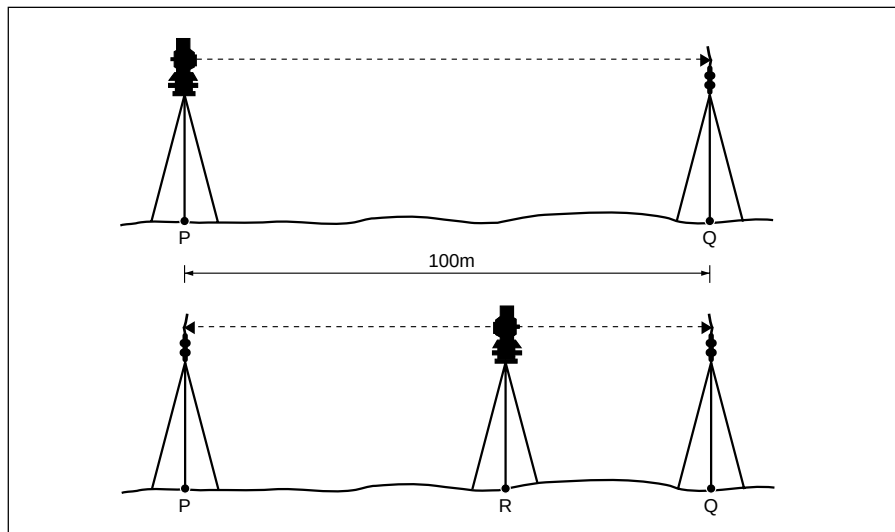
4

点検と調整

4-5. 器械定数

精度保持のため、年に数回は器械定数の点検を行うことをお勧めします。

点検は正確に測定された基線を使い、本機の測距値と比較するか、あるいは、下記の要領にて行います。



1) 点検

- (1) なるべく平坦な土地を選び、点 P に本機を設置し、点 P より約 100m 離れた点 Q に反射プリズムを置きます。

注意 • プリズム定数に注意して下さい。

- (2) PQ 間を測距します。
- (3) PQ 上の点 R に別の三脚を立て、これに本機を設置します。基点 P には別の反射プリズムを設置します。
- (4) 前視、後視で測距を行い、測距値の合計 $PR+QR$ が (2) の測距値 PQ と許容誤差内で一致するかどうか確認します。
- (5) 本機の位置を数回移動させて、(4) を行い、その平均値を求めます。
- (6) (5) の結果、測距値 $PR+QR$ と PQ の差が 3mm 以上ある場合は、製品をお買い上げ頂きましたお店か、最終頁に掲載されている最寄の弊社営業所までご連絡下さい。

5. 性能

5-1. 本機

像：	正立
倍率：	33×
口径：	45mm（50mm：測距光学系）
視界：	1° 20'
最短合焦距離：	1.3m
分解能：	2.5"
測距範囲：	[通常（視程 20km）時] [良好（視程 40km）時] 2,600m/3P 3,000m/3P 2,000m/1P 2,300m/1P 1,000m/ミニ P 1,200m/ミニ P 5m～100m/レフシート 5m～100m/レフシート

- ニコン製プリズム使用で、ミニ P、1P、3P はそれぞれミニ 1 素子、1 素子、3 素子プリズム
- レフシートはニコン製 5cm × 5cm を使用

測距精度：	精密測距モードの場合 ± (3+2ppm×D) mm (−10℃～+40℃の場合) ± (3+3ppm×D) mm (−20℃～−10℃ および+40℃～+50℃の場合) 高速測距モードの場合 ± (10+3ppm×D) mm
-------	--

- D(mm)は測定距離

測距時間：	精密測距モード 1.6 秒毎、 初回 1.6 秒 高速測距モード 1.0 秒毎、 初回 1.4 秒
測距最小表示：	1mm
測距表示：	9999.999m
測距単位：	m
測角精度：	7"

- 精度は JIS/JSIMA/ISO に準拠

角度分解能： 5"/10"/20"

- 上記のように切替え可

測角単位： DEG

高度角読取り方式： 片読み

水平角読取り方式： 片読み

- 高度角、水平角とも、光学式インクリメンタルエンコーダによる電氣的読取り方式

高度規正装置： 静電容量検出式、補正範囲±3'

求心望遠鏡： 像：正立、倍率：3×、視界：5°、合焦範囲：0.5m～∞

微動方式： 同軸クランプ微動

平盤気泡管感度： 60"/2mm

円形気泡管感度： 10"/2mm

整準台： シフト式

本体質量： 約 4.8kg（電池含む）

ケース質量： 約 2.4kg（付属品含む）

使用温度範囲： -20℃～+50℃

防水性： JIS 保護等級 6（耐水形）

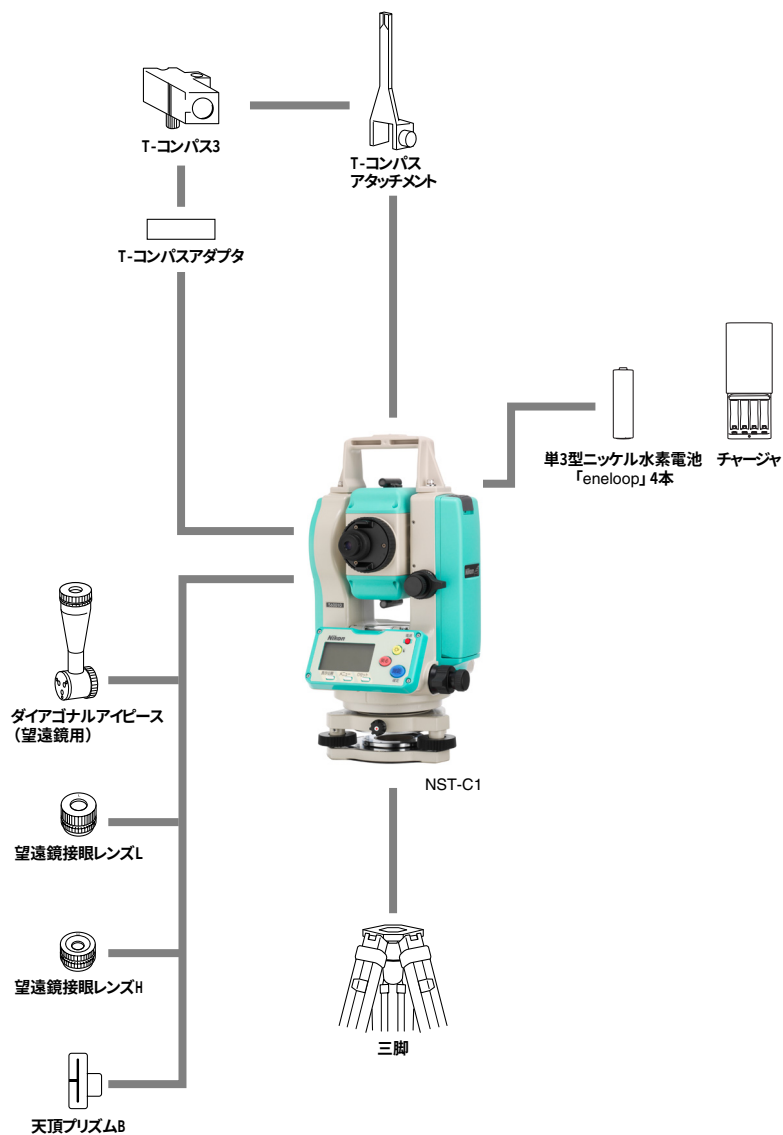
5-2. 標準構成

トータルステーション本機：	×1
単3型ニッケル水素電池：	×4
専用チャージャ：	×1
工具一式：	×1
対物キャップ：	×1
ビニールカバー：	×1
使用説明書（CD-ROM）：	×1
収納ケース：	×1
肩掛けベルト：	×1

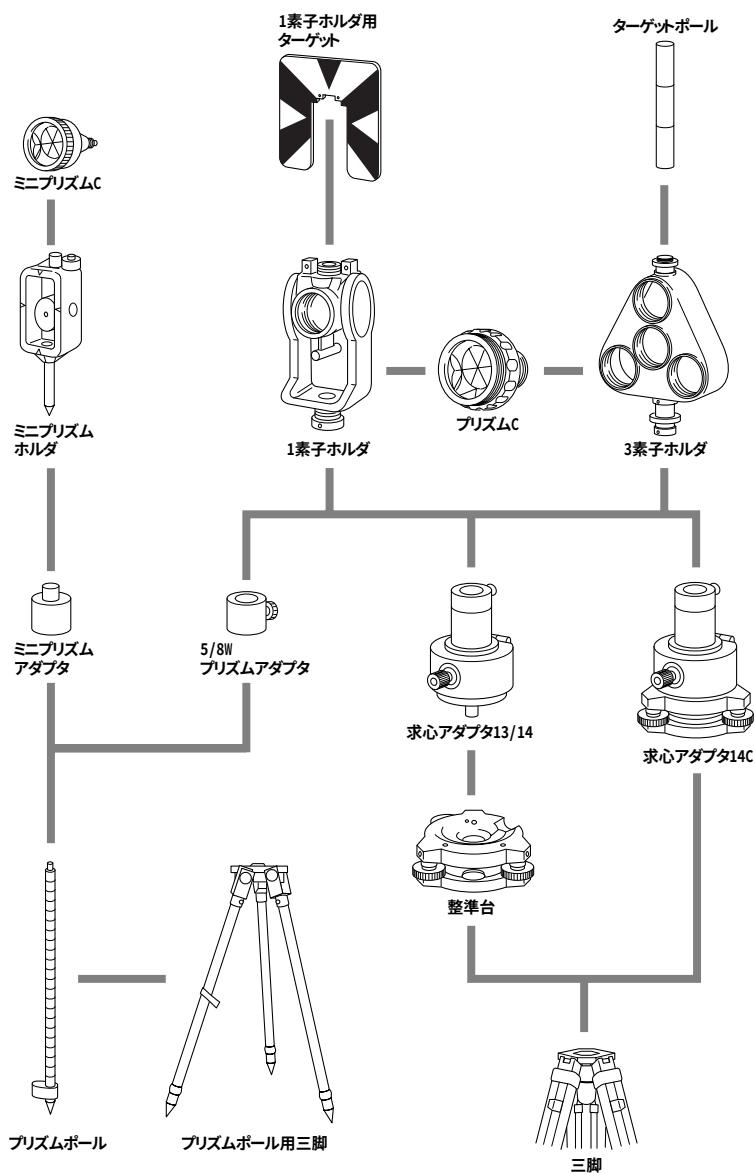
この頁に内容はありません。

6. システム図

本体側



プリズム側



7. 主なメッセージと対応方法

VA OVER SPEED

Tilt telescope

望遠鏡を速いスピードで回転した場合に発生します。

対策：望遠鏡を振り、高度角を初期化します。このエラーが頻発するようであれば、製品をお買い上げ頂きましたお店か、最終頁に掲載されている最寄の弊社営業所までご連絡下さい。

= SYSTEM ERROR =

HA OVER SPEED

Push any key end

本体を速いスピードで回転した場合に発生します。

対策：何かキーを押すと電源をオフします。再起動して観測を続けて下さい。このエラーが頻発するようであれば、製品をお買い上げ頂きましたお店か、最終頁に掲載されている最寄の弊社営業所までご連絡下さい。

= SYSTEM ERROR =

XXXXXXXXXXXXXXXXXXXX

Push any key end

その他のシステムエラーです。

本エラーが発生した場合は、XXXX の内容と共に、製品をお買い上げ頂きましたお店か、最終頁に掲載されている最寄の弊社営業所までご連絡下さい。

XXX は番号など

この頁に内容はありません。



この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス B 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオ、テレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。

取扱説明書に従って正しい取り扱いをして下さい。

LED 安全性

本製品は、クラス 1 の LED 機器です。

クラス1 LED製品
CLASS 1 LED PRODUCT

LED 発光部の仕様

LED 波長： 850nm

駆動方式： CW

対物前出力： 200 μ W 以下

繰り返し周期： 15KHz

安全規格

JIS C6802-1997、クラス 1

- 本書の内容の一部、または全部を無断で転記することは禁止されています。
- 本書の内容については、将来予告なしに変更することがあります。
- 本書の内容については万全を期しておりますが、万一不可解な点や、誤り、お気付きの点がございましたら、製品をお買い上げ頂きましたお店か、最終頁に掲載されている最寄の弊社営業所までご連絡下さいますようお願い致します。

ニコン測量機の最新情報は、以下の URL のホームページでご覧頂けます。

<http://www.nikon-trimble.co.jp/>

株式会社 ニコン・トリンブル

札幌	札幌	064-0824	札幌市中央区北 4 条西 20 丁目 2-6 芙蓉ビル	電話 (011) 621-3770
仙台	仙台	981-0904	仙台市青葉区旭ヶ丘 2-23-1-102	電話 (022) 275-3933
東京	東京	144-0035	東京都大田区南蒲田 2-16-2 テクノポート三井生命ビル	電話 (03) 3737-9411
名古屋	名古屋	461-0022	名古屋市東区東大曾根町 12-19 OZ ヒメノビル	電話 (052) 937-8787
大阪	大阪	564-0063	大阪府吹田市江坂町 1-8-2	電話 (06) 6821-4560
高松	高松	761-8073	高松市太田下町 1921-1-101	電話 (087) 814-9391
福岡	福岡	816-0095	福岡市博多区竹下 5-8-35	電話 (092) 482-8668

JSIMA

このマークは、日本測量機器工業会会員のシンボルマークであり、
日本測量機器工業会の推奨マークです。
